

## 臨床報告

# 昭和大学歯科病院における時間外受診患者の臨床統計

曾我 大輔, 勝田 秀行, 吉濱 泰斗, 近藤 誠二  
代田 達夫, 新谷 悟

**要旨:** 昭和大学歯科病院では平日夜間および土曜の午後1時から夜間, 日曜および祝日の終日は時間外受診患者に対する対応を行っている。当院は, 近隣の城南地区や川崎市からの受診患者が多く, 同地区においては平日夜間および日曜・祝日に対応可能な病院歯科・口腔外科が少ないという特徴がある。今回, 平成17年1月から平成21年12月までの5年間に当院を時間外受診した患者1,612人に対して, 年度別・月別・受診時間別・性別・年齢別受診患者数, および受診理由, 治療内容等に関して臨床統計を行ったので報告する。1年間の時間外受診平均患者数は約300人であり, 受診理由としては疼痛を主訴としたものが最も多く, 次いで外傷, 出血, 顎関節脱臼と続き, 疼痛と外傷を合わせて全体の約半分を占めていた。また当院の特徴として補綴物, 仮封材の脱離による受診も約20%と比較的多くみられた。受診年齢としては10歳未満と20歳代の患者が多い傾向が見られた。さらに, 当院と同様に歯科のみの診療科で, 時間外受診患者の対応を行っている歯学部附属病院および歯科診療所の疾患別受診患者数および診療体制を含めた報告と当院における統計を比較検討した。

昭和大学歯科病院では平日夜間および土曜の午後1時から夜間, 日曜および祝日の終日は時間外受診患者に対する対応を行っている。当院は, 城南地区, とくに近隣の大田区, 目黒区, 品川区, 世田谷区, および川崎市からの受診が多く, 同地区においては平日夜間および土日・祝日に対応可能な病院歯科・口腔外科が少ないという特徴がある。

今回, 平成17年1月から平成21年12月までの5年間に当院を時間外受診した患者に対して, 臨床統計を行い, さらに, 他地域の同様の報告と比較したので報告する。

### 対象ならびに方法

平成17年から平成21年の過去5年間に当院を時間外受診した患者1,612人に対して, 年度別・月別・受診時間別・性別・年齢別の受診患者数, および受診理由, 治療内容等に関して検討した。データは当院の当直日誌および患者カルテをもとにした。また時間外受診の対象時間帯は当院当直時間帯となる平日17:00から翌朝9:00, 土曜日13:00から翌朝9:00, 日曜および祝日は9:00から翌朝9:00までとした。

### 結 果

#### 施設概要

昭和大学歯科病院は救急指定病院とはなっていないが, 近隣に平日夜間および土日, 祝日の時間外受診患者への

対応を行っている歯科病院および歯科診療所が数少ないため, 当院が時間外対応を行っている状態である。当院には入院患者がいるため通常平日は1人の口腔外科所属の歯科医師, 土日, 祝日は2人の口腔外科所属の歯科医師が当直を行っており, さらに平日は手術直後の管理を目的として歯科麻酔科所属の歯科医師1人と共同で行っている。当院の当直医は入院患者の術後管理を主とした業務を行っているが, 地域の特徴により時間外受診患者の対応も並行して行っている。

#### 受診状況

当院における年間の時間外受診の平均患者数は約300人であり, 5年間で計1,612人であった。各月ごとの受診患者数は毎月20~30人ぐらゐを推移しており, 月別での受診患者数に差はなく特徴は見られなかった。また, 性差についても男性863人, 女性749人と若干男性のほうが多いものの, ほとんど差は見られず, 年度ごとにみても同様であった。

#### 年齢別受診患者数

年齢別では, 20歳代, 30歳代および10歳未満の患者が多く約250人前後であった。また, 40歳代以降では徐々に減少するという結果であった (Fig. 1)。

#### 曜日別受診患者数

曜日別での患者受診率では, 当院の特徴として, 土日, 祝日での受診が多いことがわかった (Table 1)。土日, 祝日での患者受診率は60%で, 平日夜間での受診率は40%

Table 1 The number of the overtime consultation patients of the day.

	H17	H18	H19	H20	H21	5 years total	Daily average
Holiday	30	28	42	32	42	174	1.9
Sunday	81	88	114	104	75	462	1.8
Saturday	87	75	48	51	57	318	1.2
Ordinary days	134	144	131	125	124	658	0.5

(n)

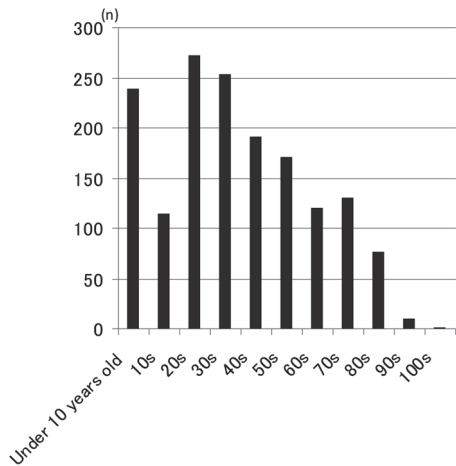


Fig. 1 The number of the age-specific overtime consultation patients.

であった。1日当たりの平均患者数は平日0.5人で、土日、祝日が約1.6人であった。

**時間帯別患者数**

受診時間帯では平日は外来終了後17:00から24:00、土日、祝日は9:00から15:00の時間帯での受診が多くみられた。深夜0:00から9:00までの受診率は18%とあまり多くみられなかったことから緊急性を要する重篤疾患は少ないことがうかがえた。

**時間外受診患者受診理由**

時間外受診理由において最も多かったのは抜歯後疼痛や歯髄炎、歯周炎などによる疼痛を主訴としたものであり、全体の30%と約3分の1を占めていた。次いで外傷が25%、出血が18%と、疼痛・外傷・出血が全体の7割以上を占めていた。また当院が二次医療機関としての歯科病院であることもあり、重傷症例や重篤な全身疾患をもっている症例はほとんど見られなかった (Fig. 2)。

**処置内容**

処置内容としては疼痛に対する鎮痛剤の処方が511名(32%)、抜歯後出血や外傷などに対する止血処置などの観血的処置が530名(33%)であった。出血により受診したが受診時すでに止血していた場合や裂傷などの外傷により受診したが消毒のみで終了した場合などの診察のみが296名(18%)であった。補綴物や仮封材などの脱

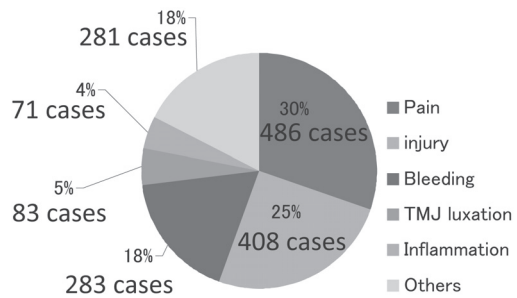


Fig. 2 The consultation reasons for the past five years.

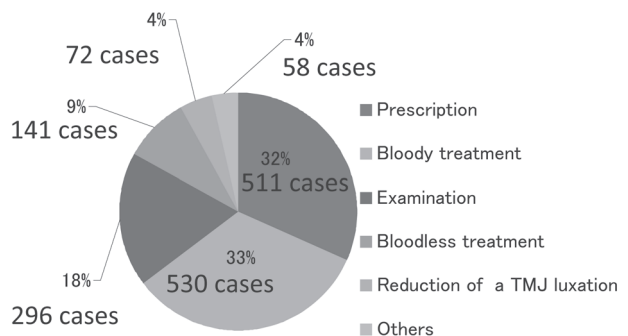


Fig. 3 The contents of the treatments for the past five years.

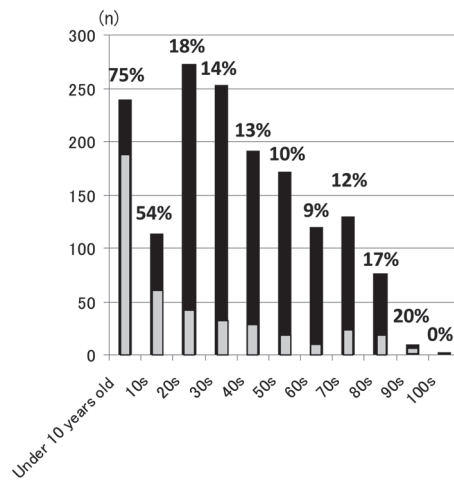


Fig. 4 The age-specific injury consultation rate for the past five years.

離に対する再装着、再仮封などの非観血的処置は141名(9%)であった。このような歯科病院ならではの受診も認められた (Fig. 3)。

**考 察**

年齢別受診患者数に関して、当院と同様に二次医療機関として機能している大阪府歯科医師会夜間緊急歯科診療所の報告では、当院と同様に20歳代、30歳代での受診が多く、40歳以降は徐々に減少していた。10歳以下の受診率も当院ほど高くはなく、また男女比はほぼ同じであった<sup>2)</sup>。

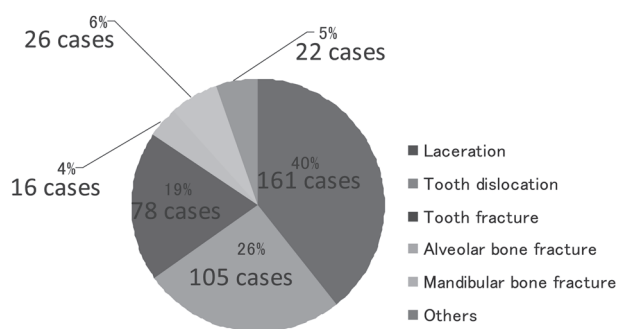


Fig. 5 The classification of 408 injury cases for the past five years.

また、時間別では、当院同様 21:00 から 23:00 での比較的早い夜間時間帯での受診が多くみられた<sup>2)</sup>。

受診理由については、他の報告においても当院と同じように疼痛を主訴とした受診が第一位であった。大阪府歯科医師会夜間緊急歯科診療所の報告では、平成 16 年から平成 21 年の過去 5 年間の累計受診患者 33,333 人のうち、外傷による受診患者は全体の 8.4% にすぎないが、顎骨骨折が年間約 10 例、歯槽骨骨折は年間約 50 例と数でみると多くの骨折症例もみられていた<sup>6)</sup>。当院の特徴としては、外傷による受診率が高いことと、炎症による受診率が低いということがあげられると思われた<sup>1-5)</sup>。

外傷については、大阪府歯科医師会夜間緊急歯科診療所が 8%、大阪大学歯学部附属病院が 17% に対して、当院では 25% であった。

#### 外傷による時間外受診

当院の外傷による受診について年齢別受診率は、10 歳未満の受診患者の 75% が外傷による受診であり、10 歳代でも 54% と比較的高い割合で外傷による受診がみられた。20 歳代以降は 10% 前後とさほど高くはなく年齢が上がるにつれて徐々に減少する傾向がみられた (Fig. 4)。そして外傷の内訳では裂傷が全外傷受診患者の 40%、次いで歯牙脱臼が 26%、歯牙破折が 19% という結果であった。歯槽骨骨折や顎骨骨折などは合わせて 10% と低かった (Fig. 5)。男女比はおよそ 2:1 で男性に多くみられた。

大阪府歯科医師会夜間緊急歯科診療所の外傷の内訳では、受診理由の第一位は裂傷であり、全外傷受診患者の 40% を占めており、次いで歯牙脱臼が 37.8% と当院とほ

ぼ同じ傾向であった。

当院は城南地区の緊急時対応可能な病院歯科の一つであり、外傷による患者受診率が高いこともわかった。外傷の内訳については、当院近隣は閑静な住宅街であるため、10 歳以下の子供が比較的多く生活している地域であること。また受傷理由も転倒などによるものが多く、交通外傷などによる受診がほとんどみられないため低年齢層の裂傷などが多かったと思われる。また当院を時間外受診する理由が齶蝕や補綴物の脱離をはじめとした保存処置や補綴治療等の緊急性を要しない受診や他領域へ波及した骨折をはじめとする重傷症例などの受診、その他のケースにより当院では対応困難で他院への受診を勧めた場合など多岐にわたっていることも特徴の一つと考えられた。後の課題として近隣の時間外対応をしている歯科医院や総合病院などの機関と連携をはかることも必要と考えられた。当院は一般の総合病院とは違いスタッフおよび設備においての限界があり、いわゆる三次救急指定病院としての体制を整えるのは困難と思われる。現在の二次医療機関としての体制を維持しつつ、当院近隣の昭和大学病院を含む総合病院や歯科医院との連携をより確立し、今後さらなる時間外診療体制の向上を行っていく必要があると考えられた。

#### 文 献

- 1) 中原寛和, 古郷幹彦, 由良義明, 丹羽 均, 阪井丘芳, 池美 保, 西尾善子, 熊谷由香里, 小山房男, 雫石 聰: 大阪大学歯学部附属病院夜間・休日緊急診療の現状と問題点. 阪大歯学誌, **52**: 1-4, 2007
- 2) 大阪府歯科医師会: 夜間緊急歯科診療スタートから一年. 大歯会雑誌, **8**: 8-23, 2005
- 3) 大阪府歯科医師会: 夜間緊急歯科診療 3 年間の軌跡. 大歯会雑誌, **8**: 8-26, 2007
- 4) 大阪府歯科医師会: 夜間緊急歯科診療における症例報告. 大歯会雑誌, **11, 12**: 24-31, 2008
- 5) 大阪府歯科医師会: 夜間緊急歯科診療 5 年を経て, そして. 大歯会雑誌, **9**: 10-27, 2009
- 6) 中原寛和, 岡 邦恭, 橋本 武, 赤根賢治, 津田高司, 加藤秀樹, 広田克征, 金井 淳: 遭遇した症例とその対応について. 日本歯科評論, **70**: 105-117, 2010

## Clinical Statistics of the Overtime Consultation in the Showa University Dental Hospital

Daisuke SOGA, Hideyuki KATSUTA, Yasuto YOSHIHAMA, Seiji KONDOU,  
Tatsuo SHIROTA and Satoru SHINTANI

*Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Showa University School of Dentistry  
2-1-1 Kitasenzoku, Ohta-ku, Tokyo, 145-8515 Japan*

(Received October 18, 2011 ; Accepted for publication January 20, 2012)

**Abstract** : We provide treatments for the overtime consultation patients at the Showa University Dental Hospital in the night on weekdays, night since afternoon of Saturday and the whole day of Sunday and holiday. There are many consultation patients from Jonan district and Kawasaki city of the neighborhood in our house. There is characteristic that there is little dental hospital and oral surgery that can support on the night and holiday in the district.

It is the clinical statistics for 1,612 patients that consulted our house for the past five years from 2005 to 2009, we reported it about the number of patients according to sex, age, consultation time, consultation reasons, treatments.

The average number of overtime consultation patients were approximately 300 per years, and the main reasons for consultations were pain. It followed with injury, bleeding and temporomandibular joint luxation next to it. The thing which matched an injury with pain occupied about half overall ratios. In addition, the consultation by the detachment of prosthesis and temporary seal materials was relatively frequent as a characteristic of our house with approximately 20%. The consultation patients had many under 10 years old and 20s.

Furthermore, we compared the other school of dentistry and the dental clinic with our house about the number of consultation patients and the medical treatment systems.

**Key words** : overtime consultation, trauma, emergency medical treatment system.